

## ◆TEKU・TEKU 2018★東京150年展+北斎通り企画（活動記録）◆

企 画■東京150年展を見て、江戸・東京を歩く ～両国・北斎通り・錦糸町界限～

日 時■2018年9月2日（日）13:30～17:30

コース■JR両国駅+江戸NOREN～江戸東京博物館「東京150年特別展」+常設展（明治・大正・昭和）  
～北斎通り（すみだ北斎美術館、ヨシダ印刷東京本店、北斎茶房ほか）～錦糸町アルカタワーズ

参加者■◎大竹 亮、井手幸人、重永真理子\*、高橋 謙、水谷晴子  
（以上5名、◎コーディネイター、\*別途参加、敬称略）

企画主旨■2018年は江戸が東京に変わって150年になります。江戸東京博物館では、この間の都市計画と都市形成の歩みを紹介する「東京150年特別展」を開催中です（8/7-10/8）。また、両国界限はインバウンド対応の日本情緒あふれるまちづくりが進んでいます。すみだ北斎美術館に立ち寄りつつ、リノベーションが進む北斎通りを錦糸町へ歩いて、江戸・東京の伝統と現代を実感しましょう。

### <参加者の意見・評価>

1◆JR両国駅+江戸NOREN（旧両国橋駅舎、1929年） 評価●4.20 内訳●AAABB

評価A●旧両国橋駅は、南の新橋（汐留）、西の飯田町、北の上野と並ぶ東京4大ターミナルの一つ（東の玄関口）だったので、その都市の記憶が残されているのが貴重（駅の展示で東武鉄道も亀戸線経由・両国橋始発だった時期があること知り、びっくり！）。せっかくなので、できればホームと線路も活用したい。

評価A●駅のデザインが気に入りました。また、江戸NORENも観光のスタート、終点として良い施設だと思います。久しぶりに長命寺桜餅を土産に買いました。

評価A●江戸NORENに土俵があるのが良かった。

評価B●旧両国駅の保存は評価できる。観光客には楽しい施設である。内部施設は何度か変更されているが、次はどんな感じになるのだろうか？

評価B●江戸NORENは、観光客が期待できそうな立地で旧駅舎を活用し、「江戸」だけでなく昭和戦前の歴史とデザインを伝えているのがよい。展示を見るとターミナルだった両国駅の歴史が分かるが、ひっそり残る3番線の活用法がもっとあるのでは。南口との回遊性、高架線路（歴史がある）をもっと見せるなど、課題はいろいろありそう。



旧両国橋ターミナルを継承するJR両国駅



旧両国橋駅舎を活用した江戸NOREN

2◆江戸東京博物館（1993年 by 菊竹清訓） 評価●3.00 内訳●AABCC

評価A●相変わらず見どころが多く、再発見することもある博物館だと思います。江戸好きにはこたえられません。外観は何時見てもインパクトありますし、屋外空間は不思議な空間ですね。

評価A●常設展の内容が充実していた。広い屋外空間は一見無駄のようだが、それがゆとりを感じさせている。

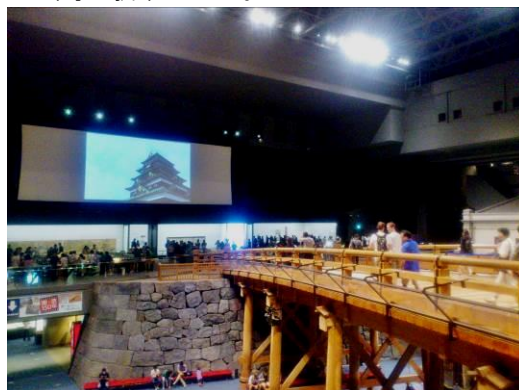
評価B●あの巨大で奇抜な外観は、良くも悪くもインパクト強烈（たぶん確信犯）。一説には被服廠跡に向けた香炉台をかたどったという。東京という大都会を前にした個人の無力さを感じさせる点で皮肉に秀逸。

評価C●①外観・屋外空間はD。建物の南側と北側に広がる景観を見通せることで、巨大建物の圧迫感を軽減したものと理解。ランドマークにはなるが、入口やチケット売り場の仕組みがわかりにくい。②展示スペース下部の広い空間は、ヒューマンスケールからかけ離れて疲れる空間。屋外の展示物は、「技術の歴史」を一般の方に紹介していることは評価するが、「見せ方」「空間の使い方」にもっと工夫があるので（歩いて見て回りたい気が起こらない）。③展示室に向かって延々と続くエスカレーターは、「江戸へのタイムスリップ」のための時間と空間として、もっと工夫がいる。エスカレーター自体がテーマパークという位置付けで。④常設展は、江戸の空間と空気、生活感覚を伝えるよう工夫されていると思う。

評価C●展示は素晴らしいが、巨大な建物をリフトアップした空間は馴染めない。



大胆な造形の江戸東京博物館外観



江戸東京博物館内部（常設展示部分）

### 3◆江戸東京博物館／東京150年特別展

評価●3.80 内訳●AABBB

評価A●150年間の都市形成の歩みを真面目に展示している点が評価できる。図面等の資料はもちろん興味深いものだったが、市民向けの広報映画では都市計画の大切さが熱心に力説され、現代においてもこれが必要と感じた。常設展の明治・大正・昭和とあわせて見ることで、計画と実際が良くわかった（見慣れた常設展も新しい観点から見ることができた）。

評価A●生き生きとしたカラーの写真から、当時の息づかいを感じるようでとても良かった。

評価B●江戸の鮮明な写真にびっくり。

評価B●それなりに楽しめました。

評価B～C●都市計画を正面から取り上げた企画として評価できる。震災復興区画整理の実際の図面など、通常は一般の方の目にふれることのないものが展示されていたり、興味深かった。震災復興事業の持っていた、近代性、先進性、市民生活への目線などを伝えるというメッセージ性をもっと欲しかった。戦災復興のPR映画が製作されていたことも初めて知ったが、「一般住民へのPR」という意気込みがあったのに、事業が失速していったことがやはり残念。150年の流れの中で、戦後の「江東デルタ再開発構想」、それに引き続く「防災拠点整備」などにふれたものがなかった（見落としていた？）。地震等の災害から市民のいのちを守ることや、住環境の向上を目的とした構想～事業の流れとして、もっと注目したい。

### 4◆すみだ北斎美術館（2016年 by 妹島和世）

評価●3.40 内訳●ABBBB

評価A●公園に面した特徴ある（しかし端正で落ち着いた）外観、小さな空間をつないだヒューマンスケールの内部、ITを利用したコンパクトな展示など好感が持てる。観光施設・文化施設であると同時に、前の公園で子供たちが遊び、1階部分で市民講座が催されるなど、地域密着の存在となっている。

評価B●建物は、デザインの斬新さ、狭い敷地の中で建物の隙間を歩かせる意外性など面白味がある反面、内部の制約で自由に回遊できない動線計画に疑問。しばらく時間を過ごしたい時は展示室を離れて、1階の図書室などに行きなさい！ということ？ 通い慣れればそれもよいかも。展示内容や講座は興味深い。

評価B●外観は良いのだが、内部空間は使いにくそうであった。想像よりも小さな美術館だった。

評価B●建物のデザインは面白い。施設として一度は行ってみたいが、二度目になるとあまり魅力を感じない。

評価B●二度目ですが、一度目より楽しめました。しかし、狭いですね。



公園の一角に佇むすみだ北斎美術館



ITを活用した北斎美術館展示室



## 5◆北斎通りの一連のリノベーション建築群（北斎茶房ほか）

評価●4.50 内訳●AAAB？

評価A●すみだ北斎美術館とスカイツリーという資源を生かし、これから興味深く発展していきそうである。

評価A●何年か前に散歩しているのですが、かなり変化しているので、びっくりしました。

評価A●既存建物をリノベし、通りのイメージ化を推し進めている点は評価できる。

評価B●事務所・工場・倉庫の地味な街が、ショップとマンションの街に変わりつつある。まだまだ途上だが、週末には行列のできるお店も増えつつあるので、高層マンション等に建替えるのではなく、もともとの街が持つモノづくりの色合いを残すリノベーションに期待したい。北斎美術館と同じ妹島和世設計によるヨシダ印刷東京本店の建物（2014年）が目をつけた。

評価？●リノベーションとしては北斎茶房を外から見ただけ。北斎茶房をネット上の記事などと合わせて考えるとA。北斎通りを何も知らずに歩いた第一印象は「普通のマンション街」。



錦糸町アルカタワーズに近い北斎茶房



透明感・浮遊感のあるヨシダ印刷東京本店

## 6◆両国・錦糸町・北斎通り界隈は今後どういう町になって欲しいか？ そのための方法は？（自由記入）

■スカイツリー、江戸東京博物館、すみだ北斎美術館を始め、両国国技館を中心とする相撲関連施設や、吉良邸ほか江戸の痕跡を発見できる場所も多く、北斎通りのリノベーションのような変化が加われば、落ち着いた良い観光地になれるのではないのでしょうか。

■歴史文化の両国と、商業交流の錦糸町、その間を江戸東京博物館とすみだ北斎美術館を軸に北斎通りで結ぶ。ヒューマンな地域性が継承されるように、北斎通りのリノベーションまちづくりを支援する。あわせて両国、錦糸町の拠点性向上と、両駅ともJRと地下鉄の乗換をもっと便利にすることが望まれる。

■①江戸～明治～大正～昭和～平成という歴史の積み重ね、それぞれの時代の断面を目で見ることができるまち。②歩いて快適なまち、回遊性：両国橋周辺～北斎美術館と公園～地区内の小公園と神社など～横十間川親水公園～錦糸公園など、空地・緑系の資源をつなぎ、散策と観光客のルートに。③住みよい住環境と住宅の質の確保で「住みたいまち」に。

■日本的なものが多いので、外国人向けのサービスが増えるとさらに人が集まるように思う。

■北斎でのリノベと、古いお店とをうまくマッチさせたまちづくりができるといいですね！

## 7■その他、今回の企画に対する感想など（自由記入）

●両国から錦糸町まで歩き「ミニ TEKU-TEKU」といった感じでした。両国は落ち着いた和風のまち、錦糸町は混んとしたアジア的なまちでした。(m/h)

●数年後、北斎通りがどのようになっているか、その周辺がどのように変わっているか楽しみです。(i/y)

●自分一人で博物館、美術館を見て回るより、大変勉強になりました。ありがとうございました。(t/k)

●江戸東京博物館は世界から観光客を集めたい展示施設だから、それ相当のスケールになることは理解できるし、展示室内には学芸員や企画者の努力があることはわかる。しかし、江戸東京博物館という建物自体も展示物だと考えると、そのメッセージは何なのだろう。外部空間や展示室に至る動線も展示空間と考えると、そこにもメッセージが込められてよいのではないかと・・・●北斎通りについて「北斎通りまちづくりの会」と連合町会との協力で「建替え調整協議会」を発足させ、建替え（多くがマンション化）の事前調整に努力していることをインターネットで知りました。町工場も残る中で集合住宅化が進むというとても難しいテーマのまちづくりだと感じました。事前調整の中で植栽の連続、建物内の明るさが歩道からも見えるようにとか、また賃貸居住者の町会加入などが話し合われているとのこと、地道な努力がされていることがわかりました。(s/m)コーディネーターより●今回は東京150年特別展をきっかけにした企画ですが、歩いてみると北斎通りの変化が面白かったですし、錦糸町の賑わいには驚きました。浅草、押上（スカイツリー）、両国、錦糸町の回遊性が出来つつあるようですね。今度また、下町工場街散歩をやりましょう！（o/r）